

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第15号
2018年11月16日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

がむしゃらに改憲へと走る安倍内閣

2019年8月25（日）国民投票か？



青井未帆さん

11/10（土）岐阜市民会館で2018ぎふ平和の集いがあり、参加してきました。この集いは岐阜九条の会などが中心メンバーとなって開かれ、今年で10年目になります。メイン行事の記念講演は学習院大学教授、憲法学者の青井未帆さん「9条を守るのはだれか～問われているのは私たち」と題して話され、700人が熱心に聴きました。

◆1 情勢

最初に自民党の有力筋から聞こえてくる話として、「安倍首相は来年7月の参議院選挙でも改憲派が2/3を維持できるかわからないので、どんなに国民が反対でも6月中に憲法改正の発議を行い6月24から2か月間の運動期間を経て8月25（日）に国民投票を考えている。」という生々しい話でした。

今年10月の自民党総裁選後の人事改造では憲法改正推進本部長に下村博文氏を起用するなどこれまでの舟田元氏などの野党との協調派を排除し、お友達の強硬派で固めて、何が何でも強行突破の構えになっている。

◆2 9条加憲の意味すること

日本国憲法9条の効果として、旧憲法下で存在した軍に関わる規定がごっそりと無くなったこと（兵役義務、統帥権、軍令、参謀本部、軍令部、軍部大臣現役武官制、戒厳制度、非常大権等）現憲法で書かれている国の機関は内閣、衆議院、参議院、裁判所、会計検査院の5つのみです。人権を尊重するためにこの機関がどうあるべきかを定めているのが現憲法です。特に最大限の人権侵害である人と人が殺しあう戦争をしてはならないと定めています。

安倍首相は「9条に自衛隊を明記しても何も変わらない」と言いますが、このことは自衛隊を憲法上の第6番目の機関としてその地位を確立し、アメリカと共に集団的自衛権を行使できる完結性の高い自律的武装集団を国の基本機関として承認することになります。次は憲法で定められた自衛隊を、それにふさわしい権限、予算、制度を法律で決めていくことになるでしょう。戦争になると非常事態として個人の権利、人権が制限されます。気が付けばいつの間にか戦前の憲法の様になってしまっている。日本国憲法第12条は「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。」と警告しています。私達も頑張らねばと思いつつ養老へ戻りました。

世話人 中野一美



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

♪喫茶・PEACE GUARD (ピースガード)♪

第1回例会、開催しました

世話人 問山 尚義



11/3 第1回定例会



当会の世話人会で、事あるごとに悩みの種になっていた「定例企画」をどうしようというテーマについて、例えばこんなのはどう？というひとつの試みとして、今回”喫茶・ピースガード”を開催しました。

岐阜九条の会の「サロン・9条」や海津の「円卓会議」などがイメージにありました。年間4～5回のペースで定着できないかと思います。

秋のイベント目白押しの中、11月3日午後1時半から中央公民で開催したところ、14名の方に集まっていただきました。何とか格好がついたかなと、ほっとしました。また当日会場で、¥4,600のカンパが集まりました。

8月に実施した「満蒙開拓平和記念館」へのバスツアーのおさらいの意味も込めて、討論の一助になればと、以下の4つのテーマで話題提供をしてみました。

- 1、「満州開拓移民」の立案者は誰か（2006年のTV番組より）
- 2、佐々木忠綱村長の話（書籍：分村移民を拒否した村長より）
- 3、開拓団の戦後→更なる戦後開拓
- 4、岐阜県黒川開拓団の悲劇について（岐阜での証言集会とNHKの番組から）

1については、開拓団計画の大元に東宮鐵男（とうみやかねお）という関東軍軍人がいた事。東宮と移民アドバイザーの永田稔（しげじ）との激しい口論の内容が参加者に注目されたようでした。

2について、分村移民を拒否した佐々木村長は、若いころ「自由大学」という自主学习運動に取り組んでいた事が、彼の人格形成に大きく影響したことがわかりました。

3では、成田空港建設が大問題になった原因に、三里塚が戦後開拓で拓いた土地だったことが遠因になっていた事は、目からうろこでした。

4では、去年のNHKの番組「告白」を見た方が、その日は夜眠れなかったと語られていた事が印象的でした。この悲劇は無かったことにできない。まだまだ知らない事実が有るのではないかと、との思いが頭をもたげてきます。

「彰元さんのつどい」(真宗大谷派大垣教区主催)を開催しました！

報告：佐竹 哲（世話人）

10月22日、垂井町岩手の明泉寺にて「彰元さんのつどい」が開催されました。彰元さんとは、明泉寺の三代前住職・竹中彰元であります。竹中彰元は、1937年、日中戦争が開戦、各地で出征兵士が増加する頃に公然と「戦争は罪悪である」、「この度の事変について侵略の様に考える」と発言して逮捕、有罪判決を受けました。真宗大谷派大垣教区では竹中の命日に合わせて毎年、このつどいを開催しております。私は、毎年、スタッフとして関わっており、この紙面を借りて「彰元さんのつどい」の報告をさせていただきます。

今年は、沖縄在住の奥間政則さんをお招きして、講題「沖縄からの訴え」を講演していただきました。奥間さんは、かつては土木技術者として米軍基地内工事の責任者をされていました。当時は勤務先も基地反対運動を認めず、奥間さんも米軍基地は仕方のないことと考えていました。ところが三年前から基地反対運動に関わるようになったのです。

それは2013年、お父さんの書いた手記を読んだことがきっかけでありました。その手記には、沖縄戦の壮絶な体験や戦後の米軍の圧政、本土復帰後も沖縄が基地に苦しめられている現実が書かれていました。また、戦後、お父さん自身がハンセン病を発症し、沖縄を出て、奄美大島の和光園という療養所に入所（実体は隔離政策）していたこと、そこで元ハンセン病患者のお母さんと結婚したことも書かれていました。国内のハンセン病療養所で和光園だけが断種・墮胎を行なっていなかったため奥間さんは誕生したのです。奥間さんは運命的なものを感じたと言います。その二年後には奥間さんは、お父さんが晩年に入所された沖縄のハンセン病療養施設「愛楽園」を訪ね、記念誌『沖縄県ハンセン病証言集』からお父さんの証言を知らされたのです。そこには国による元ハンセン病患者の隔離政策が、人々に偏見と差別をもたらし、お父さんもハンセン病完治後に勤めた職場でいじめを受けたことが書かれていました。奥間さんには何も語らなかつたお父さんの苦悩に触れて、涙が止まらなかつた当時の思いを語られました。奥間さんは、沖縄の基地問題とハンセン病差別問題は、国策によって弱者が苦しめられてきた点で共通する問題であることに気付き、米軍基地建設反対運動に積極的に関わるようになったのです。

講演後半には土木技術者の知識を生かし、辺野古新基地建設の問題点を指摘されました。辺野古の海岸は、琉球石灰岩の軟弱地盤であり、巨大な基地を作ることは危険であること、更にその海底に活断層が認められることを指摘されました。サンゴ礁が破壊され、漁場が失われる等の問題は以前から言われていましたが、奥間さんが指摘する地盤問題には驚かされるばかりでありました。沖縄の民意を無視して米軍の機嫌をうかがう国策とは何なのでしょう？ 私たちは、沖縄の基地問題に無関心であるならば、沖縄県民に対し加害者になることを考えさせる貴重な講演となりました。



スライドを使って講演する奥間さん

◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★11月23日（金）午後1時、「第47回西濃母親大会」 → チラシあり
 演題：「亡き父手塚治虫を語る」、講師：手塚るみ子さん
 場所：情報工房スィンクホール
 主催：第47回西濃母親大会実行委員会

★12月1日（土）午後1時、望月衣塑子さんの講演会 → チラシあり
 演題：「記者が斬る！安倍政権の実像と腐敗」
 場所：日光コミュニティーセンター 車を出します。同乗希望者は世話人まで
 主催：戦争させない・9条壊すな！岐阜総がかり行動実行委員会



東京(中日)新聞記者
望月衣塑子さん

★12月8日（土）午後1時、ぎふコラボ友の会総会 → チラシあり
 フォトジャーナリスト伊藤孝司氏による講演
 場所：大垣市民会館3階 大会議室1
 主催：西濃法律事務所、ぎふコラボ友の会

★12月21日（金）午前11時、9条の会・養老、忘年会 → チラシあり
 場所：町内石畑、ふれあいセンター（今年の総会と同じ場所）

編集後記

改めて明治150年を疑う

今年もあと一月余り、夜になると東の空にオリオン座と冬の三角が見えます。「西郷どん」も佳境に差し掛かり、「明治150年」も終わらんとしています。気になってネットを見ると、政府主催の記念式典はほぼ不発に終わったようです。これに対抗する市民団体の「明治150年徹底批判」の集会で、琉球大学の高嶋先生が「安倍、戦後七十年談話」の舞台裏を明かしていました。先生によると安倍さんは、「先の大戦はアジア解放のための戦争だった」との文言をどうしても入れたかったらしいのですが、それに釘を刺したのが、あの読売新聞の渡辺恒雄氏らしいのです。

安倍さんはこれで「七十年談話」への意欲をすっかり無くし、あの意味不明な、あってもなくてもいいような談話になったそうです。

戦争をしなかった戦後73年に対して、対外戦争に明け暮れた明治77年、150年は単色ではないとの思いを新たにしました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

“PEACE GOURD”は本号で今年最後になり、次の16号は来年1月に発行予定をしています。また2月には総会もあります。今年は比較的可ンパが堅調でバスツアーのような企画にも取り組むことが出来ました。来年も宜しくお祈りします。

問山 尚義（世話人）



「彰元さんのついで」で「反戦僧侶」を歌う右端は作曲者の増田康記さん
10月28日、明泉寺にて



今年も来ました冬の庭先常連客えなが

本号で紹介したイベントの資料をご希望の方は、世話人まで連絡ください

連絡先

「9条の会・養老」世話人
 090-9183-0444 中野一美（代表）
 090-9894-0444 佐竹 哲
 090-2348-0719 問山尚義
 090-8733-0090 禿 憲正
 fax(問山)
 0584-71-8746
 E-mail(問山)
 toiyama@ninus.ocn.ne.jp